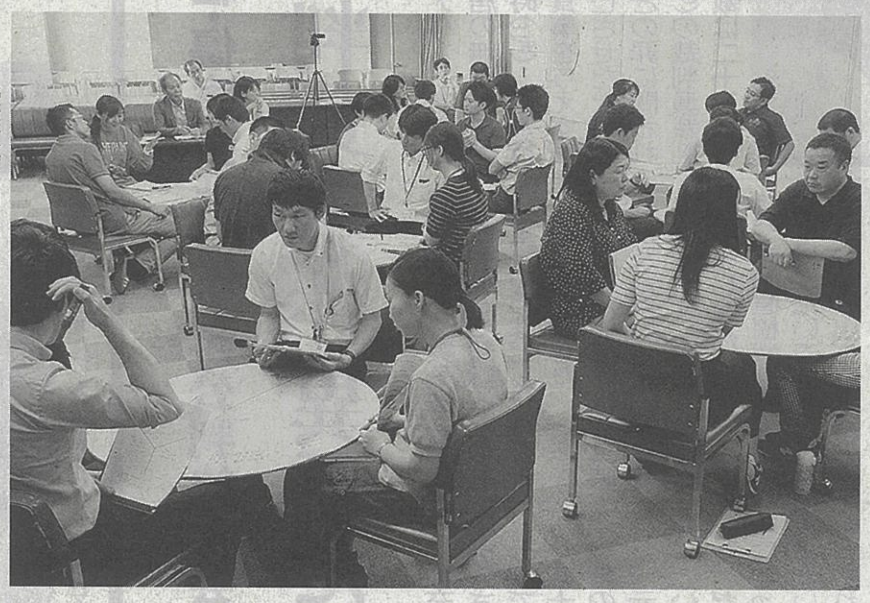
教職員の取り組み表彰「ＮＩＴＳ大賞」

独立行政法人教職員支援機構（ＮＩＴＳ、茨城県つくば市）が主催し、教職員が取り組んだ学校改善や教育実践の優れた事例を選ぶ「第五回ＮＩＴＳ大賞」で、県内から近江八幡市八幡中学校が準大賞となり、愛荘町愛知川小学校が入選した。全国から百三十六点の応募があり、エントリーシートでの書類審査を経て、オンラインのプレゼンテーションで、大賞と準大賞、優秀賞、入選の計十一校を選んだ。県内受賞校の取り組みを紹介する。

◇審査委員（五十音順、敬称略）　今村久美認定ＮＰＯ法人カタリバ代表理事、北神正行国士舘大教授（審査委員長）、貞広斎子千葉大教授、二宮徹ＮＨＫ解説委員室解説主幹、平田オリザ芸術文化観光専門職大学学長、山極寿一総合地球環境学研究所所長



授業改善に向け、小グループで意見を出し合う教員たち＝近江八幡市八幡中で（同校提供）

準大賞　八幡中（近江八幡市）

生徒の声聞き授業改善

八幡中では二〇一九年度から年二回、全校生徒に全教科の授業についてアンケートを実施。「よかったところ」と「お願いしたいこと」を尋ね、授業の改善につなげている。

教員は教科の枠を超えて四人グループを構成。互いに授業を見学し、月一回の研究会だけでなく、普段から対話して問題点や考えを共有し、生徒に寄り添った授業を進めてきた。

以前は多忙感から授業改善が進まず、現状に満足する雰囲気もあった。教員の意識が高まると、生徒との信頼関係が深まった。「授業が分かりやすい」と評価した生徒は、取り組み前の一八年の69％から、二一年は84％に上がった。

取り組みの中心を担う柳内祐樹教諭(四)は「生徒からの信頼は、教員の働きがいの源。生徒の声を出発点に授業改善が進み、より輝く学校になれば」と話した。（松瀬晴行）

「分かりやすい」評価↗

入選　愛知川小（愛荘町）

期末テストやプリント　意欲向上する仕組み

ステップアッププリントに黙々と取り組む１年生児童＝愛荘町愛知川小で

愛知川小では、学校全体の学力向上を目指し、二〇二〇年度から、中学校の定期テストをヒントに「期末テスト」を導入した。テスト前一週間を「自主勉チャレンジウィーク」として時間を確保。出題範囲のワークシート配布やノートの使い方指導をし、学習方法も提示する。テスト結果もデータで示し、子どもたちの向上心に火をつける。

さらに、昨年十一月から、学力差が出やすい算数に特化した「ステップアッププリント」を導入。教員が学年の単元ごとに五分で取り組めるプリントを計二百七十枚作成。つまずいたら前の単元に戻れるようにし、学習の積み残しを防ぐ。

週に二度、昼休み後に実施。一年生の担任、野々村愛子教諭(三九)は「自分でやって間違うと戻るところがわかるように作った。できる楽しさからどんどん挑戦してくれている」と手応えを話す。（石曽根和花）

2022年 3月24日　中日新聞より